

◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆青山恵子が歌い、演じる、小泉八雲の世界◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

神々の国・出雲を崇拜し、宍道湖の美しさに感動し、大橋を渡る下駄の音を楽しみ・・・一年しかいなかった松江をこよなく愛した八雲。出雲に生まれ育った青山恵子が、ふるさとへの温かい思いと共に『雪女』『耳なし芳一』それぞれに同郷の名歌手をゲストに迎え、「ふるさと発」の八雲の世界を瑞々しく表現します。



Photo by Koshu ENDO

◆青山恵子(あおやま・けいこ) / メゾソプラノ

出雲市出身。東京藝術大学音楽科卒業、同大学院博士課程修了。声楽を森山俊雄、須賀靖和、畑中更子、邦楽を西垣勇三、平井澄子、民謡を本條秀太郎、早坂光枝の各氏に師事。1987年声楽では日本初の博士号を、テーマ「日本歌曲の歌唱法の実践的研究」～伝統音楽との接点～で取得。博士号取得記念リサイタル「安達ヶ原の鬼女」サントリーホールを開催。その後も洋楽と伝統音楽の歌唱法の融合を研究し、邦楽器伴奏の作品や語り物、モノオペラなど様々なジャンルに取り組み、これらを取り入れたシリーズ「日本の詩コンサート」を定期的に開催。オペラでは室内歌劇場「浅茅ヶ宿」(宮木)、新国立劇場「黒船」(お松)、室内歌劇場「星の王子さま」(狐)、日本歌曲セミナー講師、合唱団ヴォイストレーナーなど広く活動している。2011年2月には、長年ニューヨークにおいて活動する「ミュージック・フロム・ジャパン(三浦尚之主宰)」の音楽祭に、初の声楽家として招かれた。1975年四家文子主宰・波の会「第1回日本歌曲コンクール」1位、98年ミュージックペンクラブ「コンサート・パフォーマンス賞」。CDに「青山恵子名歌集～紡ぎゆく歌ものがたり」、中島はる作曲「白い曼珠沙華」、増本伎共子作曲「あはれ」、新実徳英作曲「白いうた青いうた」、猪木隆作曲「語り歌曲の世界」「悲歌」などがある。東京室内歌劇場会員。http://www.saturn.dti.ne.jp/~machida/



◆経種廉彦(いだね・やすひこ) / テノール

松江市出身。東京藝術大学卒業、同大学院修了。文化庁オペラ研修所修了。イタリア声楽コンクールにて金賞を受賞。1991年文化庁芸術家在外研修員としてミラノに留学。97年にオープンした新国立劇場ではすでに30本のオペラに出演。最近では2010年6月新国立劇場 池辺晋一郎作曲「鹿鳴館」世界初演、2011年2月新国立劇場團伊玖磨作曲「夕鶴」、4月新国立劇場シュトラウス作曲「薔薇の騎士」、2012年2月新国立劇場松村鎮三作曲「沈黙」、7月福島県復興プロジェクトオペラ「白虎」世界初演、11月山形交響楽団定期演奏会ワーグナー作曲「さまよえるオランダ人」他に主演。コンサートにも数多く出演。2012年国立音楽大学芸術祭オペラ「コシ・ファン・トゥッテ」では演出を手掛けた。二期会会員。国立音楽大学・大学院准教授、東京音楽大学非常勤講師。http://idane.jp



◆福島明也(ふくしま・あきや) / バリトン

出雲市(大社)出身。圧倒的な存在感と美声を誇る、我が国を代表するバリトン。東京藝術大学卒業。同大学院修了、並びに文化庁オペラ研修所修了。東京藝術大学音楽学部声楽科教授。二期会会員。日本演奏連盟会員。オペラデビューをブッチーニ『ラ・ボエーム』のマルチェロで飾り、以降古典派、ロマン派、更には現代の新作オペラまで、和洋を問わず数多くのオペラ作品に主演し、役柄に深く入り込んだ心理描写や、多彩な音色を自在に操る完璧なテクニックは常に聴衆の大喝采を浴びており、現在、日本のオペラ界にはなくてはならないプリモバリトンである。1987年に文化庁派遣芸術家在外研修員として渡伊。第54回日本音楽コンクール第1位(福沢賞受賞)をはじめ、サンタマルゲリータ(伊)での国際コンクール第1位。金メダル受賞。



Photo by Koshu ENDO

◆塚田佳男(つかた・よしお) / ピアノ

群馬県出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業後、1975年から77年までドイツ・デトモルトにてピアノ、オルガン、伴奏法を学ぶ。帰国後から現在に至るまで歌を知りぬいた繊細な音楽性で、特に日本歌曲の研究、解釈、伴奏においては現在日本の第一人者としての活動を続けている。日本歌曲や日本の歌による演奏会での企画構成と演奏は、国内はもとより海外においても高い評価を得ている。様々な歌手の伴奏を務めたCDは多数リリースされている。また、セミナー等での講師としての活動も、日本歌曲の歌唱法および伴奏法の指導を中心として全国各地で行っており、多くの歌手とピアニスト達を育成している。96年上毛芸術奨励賞、および99年に設立の歌曲伴奏者に対する賞「水谷達夫賞」の第一回受賞者。



◆寺嶋陸也(てらしま・りくや) / チェンバロ

1964年生まれ。東京藝術大学作曲科卒、同大学院修了。オペラシアターこんにゃく座での演奏や、97年東京都現代美術館でのボンビドー・コレクション展開催記念サティ連続コンサート「伝統の変装」、03年パリ日本文化会館における作品個展「東洋・西洋の音楽の交流」などは高く評価され、06年にはタングルウッド音楽祭に招かれポストン交響楽団のメンバーと自作を含む室内楽を演奏した。作曲のほか、ピアノの演奏や指揮、音楽祭の音楽監督など、活動は多方面にわたる。オペラ『ガリレイの生涯』『未摘花』、合唱ファンタジア『オホホ鳥奇譚』『樹の奇・危・嬉～ピカソくんとうたおう』、『尺八・二十絃箏と管弦楽のための協奏曲』、オーボエ・三味線と打楽器のための『異郷の景色』、朗読と箏、室内管弦楽のための『貝の火』など作品多数。www.gregorio.jp/terashima/

◆久保田晶子(くぼた・あきこ) / 琵琶

平家物語や軍記物の古典や、民謡を原作とした現代語での新作の自作自演など、琵琶ならではの語り表現を求め活動。また邦楽アンサンブルで器楽としての演奏も活発にしている。アニメ・テレビ音楽の録音、劇中音楽の創作、演奏もしている。ブラジル、香港など国外での活動も多数。参加団体：日本音楽集団(運営委員)、谷中琵琶Style、和楽団煌、アンサンブル室町。

◆古部賢一(ふるべ・けんいち) / オーボエ

東京藝術大学在学中の1991年、小澤征爾氏に認められ新日本フィルハーモニー交響楽団首席オーボエ奏者に就任。これまでにソリストとして国内外の数多くのオーケストラ、アーティストと共演するほか、サイトウキネン、宮崎国際、木曾ほか主要音楽祭への出演、リサイタルや室内楽でも活躍している。第10回出光音楽賞をオーボエ奏者として初めて受賞。

◆朝吹元(あさぶき・げん) / チェロ

6歳よりチェロを始める。桐朋学園高等学校音楽科卒業。卒業演奏会に出演。桐朋学園大学ソリスト・ディプロマコース修了。在学中、故ベルガメンシコフ、プルネロなど世界的巨匠のマスタークラスを受講。イタリア・クーブラ音楽祭にて2年連続でソリストに選ばれる。毛利伯郎、林俊昭、高田剛志の各氏に師事。横浜シフォニエッタ首席奏者

◆小泉凡(こいずみ・ぼん) / おはなし

1961年東京生まれ。成城大学大学院文学研究科博士課程前期修了(民俗学専攻)。現在、島根県立大学短期大学部教授、小泉八雲記念館顧問、焼津小泉八雲記念館名誉館長。著書に『民俗学者・小泉八雲』(恒文社)、『八雲の五十四年』(共著、松江今井書店)、『文学アルバム小泉八雲』(共著、恒文社)などがある。小泉八雲の直系のひ孫にあたる。

◆引野裕亮(ひきの・ゆうすけ) / 「思ひ出の記-雪女篇」脚本・作曲

松江市出身。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。声楽を故・三原重行、高橋大海、川上洋司各氏に師事。和声、音楽学、作曲法を青島広志氏に師事。松江市商工会議所記念式典での国歌独唱や、ベートーヴェン『第九』テノール・ソリストほか、数多くの演奏会に出演。作曲活動にも力を入れ、オペラ『鶴羽』、合唱曲「祈らなくとものか」「魂」《行きずりの黒いエトランゼに》など声楽作品を中心に多数作・編曲。

◆大島尚志(おおしま・たかし) / 演出

中央大学文学部哲学科卒業。故粟國安彦に師事。マルチェルラ・ゴボー二女史のもと演出基礎を学ぶ。モーツァルトオペラ全曲、イタリアオペラを中心に数多くの作品を演出。また、三木稔作曲「ワカヒメ」など日本オペラにも多く携わり、自身の作・台本・演出によるオペラ「聖徳太子」「防人・火麻呂の木」「ありがとう北里先生」などを上演。